

農地・水・環境 だより【第3号】

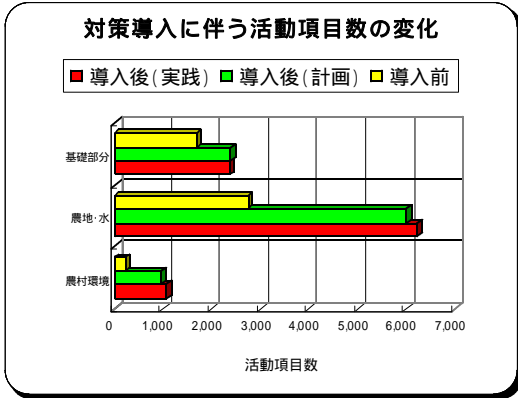
【 栃木県農地・水・環境保全向上対策通信 】

編集・発行 栃木県農地・水・環境保全向上対策推進協議会
 〒 321-0901 宇都宮市平出町 1260 水土里ネットとちぎ
 TEL:028-660-5706 FAX: 028-660-5729
 E-mail: doren-s4@snow.ucatv.ne.jp http://www.tcgnochimizu.net/

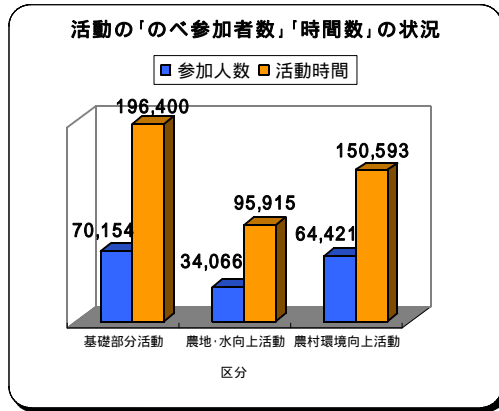
県内の動き・取組状況

写真：姿川環境保全会提供

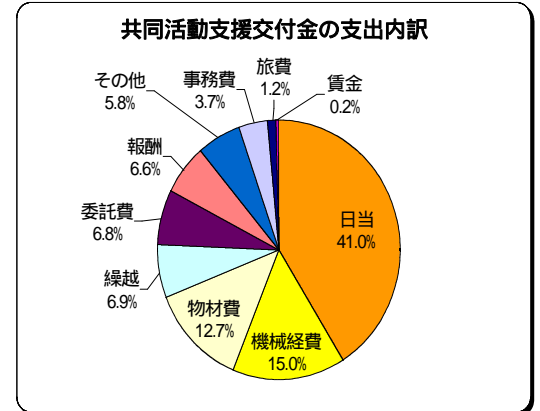
平成19年度の取組を振り返って



導入前に比べ、「基礎活動で1.4倍」「農地・水向上活動で2.3倍」「農村環境向上活動で4.8倍」の活動が予定され、計画どおり実践されました。また、施設の点検・診断や共同活動に向けての計画策定など、体系的な取組が行われました。

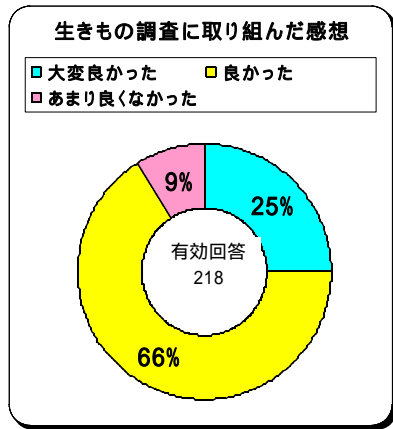
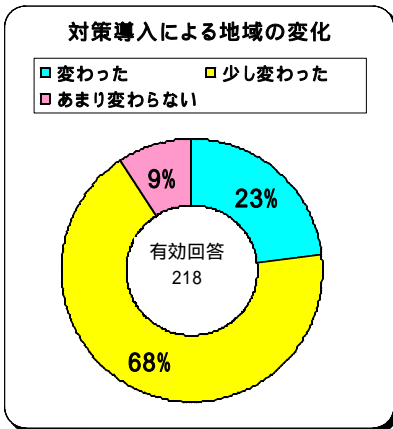


のべ参加者数は約16.8万人、基礎活動7万人、農地・水向上活動3.4万人、農村環境向上活動6.4万人となっています。内訳は、基礎活動及び農地・水向上活動で農業者が約8割、非農業者が2割。農村環境向上活動では農業者・非農業者共に約4割、構成員以外1割程度でした。



平成19年度支援交付金863,908,360円のうち、798,529,904円(92%)が支出され、約8%が20年度に繰り越されました。支出内訳は、日当(41%)、機械経費(15%)、物材費(13%)、委託費(7%)、報酬(7%)、事務費(4%)等となっています。

活動組織アンケートの結果



平成19年度から取り組んでいる266組織を対象に、対策導入に係るアンケート調査を実施した結果、「対策を通じて地域が変わった」、「生きもの調査を実施して良かった」と回答した組織がそれぞれ91%となりました。特に生きもの調査については、「地域の環境を見直すきっかけとなった」「幅広い年齢層の参加により地域のまとまりが強化された」「子ども達が生き活きとし、環境教育の点でも効果があった」といった声が報告されています。一方で、推進上の課題・要望として「地域の意識改革と取組のさらなる理解促進」「対象活動の拡大」「平成24年度以降の制度継続」などの意見が多く寄せられました。また、小山市の『蕎麦花の郷延島上』では、取組の内容や効果に関する独自のアンケート調査を実施し、成果を確認するなど鋭意努力されている地域もありました。

平成20年度の取組が確定しました

営農活動支援の取組

取組組織 44 (13市町)
 取組面積 1,479ha
 (水稲1,443ha 他36ha)

共同活動支援の取組

活動組織数: 371 (29市町)
 活動の対象となる資源量
 農地面積 29,728ha (交付金対象 28,021ha)
 開水路 5,551km、管水路 328km、農道 3,736km
 ため池 128箇所

活動には

農業者22千人、8農業団体のほか、2.8千人の非農業者、2,246の団体の参加が予定されています。
各組織では
 草刈りや水路の土砂さらい、施設の点検、生きもの調査はもとより、施設を長持ちさせるための補修、景観植物の植栽や生態系保全活動等への取組を予定(実践)しています。

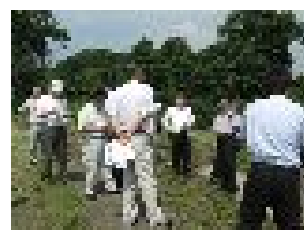
今後とも

健全な農村環境の保全と地域の農業振興に向けて話し合いの下、**活動のステップアップや組織運営の充実化、さらには農業振興施策との連携**に努めていきたいと思います。

県第三者委員会の現地調査が行われました

意見交換の様子

県では、農地・水・環境保全向上対策の総合的・計画的推進を図るため、取組の評価検証を行う第三者機関として「**栃木県農村地域資源保全向上対策委員会**」を設置しています。この度、久那瀬農地水環境保全会(那珂川町)及び大桶地域みどり保全会(那須烏山市)の御協力をいただき現地を調査するとともに、組織の代表者の方と活発な意見交換を行いました。





地域のトピックス

写真：姿川環境保全会提供



本年度、取組のステップアップを図るため、「積極的な情報発信」を行うこととしており、多くの活動組織で新聞等への情報提供や県協議会ホームページでの情報発信に努めています。
今回は、組織から寄せられた活動情報の一部を紹介します。

『姿川環境保全会』の生きもの調査

平成20年7月13日に一般63名(うち子供34名)と構成員19名の計82名の参加者で「生きもの調査」を実施しました。
当地区は土地改良事業が最近施工された地域なので、生き物にとっては住みにくい環境となっていますが、タガメ、コシマゲンゴロウ、ハラビロトンボ、ハラビロトンボ、コオニヤマト、ヒメメンボなどの昆虫やマルタニシ、ドジョウ、タモロコ、フナ、ニホンアマガエル、ニホンアカガエル、トウキョウダルマガエルなど多くの生き物を見つけることができました。隣接する姿川ではカマツカ、オイカワ、ウグイ、カワムツが見つけられました。



『玉田の環境を良くする会』の交流活動

6月8日(日)矢板市玉田地区で、構成員である「玉田集落営農組合」と「玉田の環境を良くする会」が連携して、昨年に続き「水田アート」に取り組んだ。
今年も、水田に本来オリジナル品種「なすひかり」、「赤もち」、「古代米」などの5品種で、なすひかりのキャラクターである「とんぼ」の姿と「玉田のなすひかり」を文字を入れた。
参加した子供たちからは、「楽しかった。収穫の秋が楽しみ。」などといった声が聞こえ、田植え後は、参加者全員で「なすひかり」のおにぎりや豚汁を食べながら交流を図った。
収穫の秋になれば、黄、赤、黒、白、緑などのコントラストが見事なアートとなり、地域の話題となる。



『三区町環境保全隊』の景観形成活動

活動目的:地域の「和」で美しい景づくり
活動実施日:19年度からの継続した取組
活動内容:休耕農地、水路沿い、農道への植栽
参加状況:19年度から延べ700名(参加比率 農業者25%、非農業者65%、子供10%)
費用:19年度から約132万(種、花苗、肥料、土、広帯用資材作成、飲み物、植栽・除草等日当)



参加人数 48名(非農家8名)
活動日 平成20年6月8日(日)
活動内容 幹線農道(ふるさと農道)路肩にイワダレソウの植栽を行いました。平成19年度植栽箇所につけて、約1.2km植栽しました。道路沿いの作業でしたので、ガードマンを配置し、安全に気を付けました。

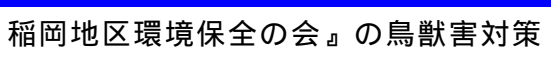


『芳志戸環境向上推進会議』の「グランドカバー」プランツ植栽

姿川環境保全会、三区町環境保全会をはじめ、多くの組織から沢山の情報をいただいています。詳細は協議会HPをご覧ください

4月20日(日)「稲岡地区環境保全の会」では、近年増え山林からの侵入者猪に頭を痛めていましたが、昨年度本町に取り組み活動の一環としてイノシシ防護柵(L=60m)の設置を進めてきました。
この春先も、延長約210mの防護柵を設置しました。

平成20年度の内容
1. 目的:農地(水田)へのイノシシの侵入防止
2. 参加者:構成員計18名(水利組合:14名、自治会:4名)(農業者:14名、非農業者:4名)
3. イノシシ侵入防護柵の設置概要:L=210m、H=1m
4. 作業時間:午前中終了。
5. 概算費用:約2.6万円
6. その他:防護柵設置にあたっては、地元漁友会から設置場所や柵の高さなどのアドバイスを受けました。



『稲岡地区環境保全の会』の鳥獣害対策



『美田の里 今里』の景観形成活動

水田魚道の成果を紹介します

本年度、対策を活用し、10地区で20箇所の水田魚道が設置されました。魚道設置をアドバイスした「メダカ里親の会」に報告された成果の一部を紹介します。



与能資源保全会(芳賀町)

3箇所の魚道で、6/30~7/5の5日間で、ドジョウ(758匹)、タモロコ(468匹)、フナ(34匹)、ギバチ(1匹)の遡上を確認しました。



久那瀬農地水環境保全会(那珂川町)

農業用排水路が一級河川に落ちる落差部に設置、5/10~6/25でシマドジョウ(14匹)、ヨシノボリ(12匹)、タモロコ(10匹)、ナマズ(9匹)、他の遡上を確認しました。

協議会からのお知らせ

『田んぼまわりの生きもの調査発表会(仮称)』への作品応募について

『田んぼまわりの生きもの調査』の結果や取組状況をとりとまとめ、生きものマップコンテスト・写真コンテストに応募しましょう。
応募期間は9月1日(月)~10月15日(水)です。
作品は市町の担当部署にお出してください。入賞作品は平成21年1月25日に開催する『田んぼまわりの生きもの調査発表会(仮称)』で展示する予定です。
協議会ホームページを御覧ください。

??御存知ですか??

耕作放棄地調査について

本年度、市町と市町農業委員会で「耕作放棄地の状況調査」を行っています。農地・水対策の共同活動で復旧活動に取り組み際には、市町担当者にお知らせ下さい。